環境パートナーシップちば
だより
— つながれ ひろがれ —

第１５２号
特定非営利活動法人
環境パートナーシップちば
℡：090-8116-4633
E-mail：info@kanpachiba.com
https://kanpachiba.com/

若者が主役の環境保全活動応援事業（千葉県主催）
「若者が主役の環境保全活動アイデアコンテスト」募集が始まりました。
応募締切り：令和５年９月19日（火）

当会が千葉県より受託した本事業の主旨は、若者の創意工夫による環境保全活動のアイデアコンテストを開催し、活動への支援を行うことで、千葉県の環境活動をリードする若手人材の育成を図ることです。

アイデアコンテストまでの流れと主なポイントは下記になります
▼考える （１）募集するアイデアの内容 （２）応募資格 （３）募集期間 （４）応募方法 （５）応募を検討する者への支援
▼発表する （１）一次審査（書類審査） （２）コンテストの開催（会場審査） （３）審査の視点
▼活動する（１）研鑽機会の提供 （２）企業等への紹介 （３）各種助成制度活用支援（県 HP より）

【若者を応援する団体・企業】
当会（受託団体）では、若者が考えるための課題提供と活動を応援する呼びかけを、千葉県内のNPO、企業へ行いました。現時点では、NPO 団体：48、企業：13 が登録してくださっております。
なお、応援参加団体は継続して募集しておりますので、未だ登録されていない団体の方は是非よろしくお願いいたします。

【若者がアイデアを深めるためのスタディツアー】
若者が課題を探し、現地の活動を体験し考える場として、主に夏休みの期間スタディツアーも実施します。
申し込みは、メール：youth@kanpachiba.com（当会事務局）へお知らせください。受け入れ団体と調整後、現地へ行くことになります。保険加入や団体の都合も踏まえ、申し込みは１週間前までにお願いしています。

【募集へ向けて】
募集要領：下記でご確認ください。
https://www.pref.chiba.lg.jp/shigen/kankyougakushuu/wakamono/2023/r5wakamonoouen-bosyuu.html（千葉県 HP）
当会の HP：　https://kanpachiba.com/

【本事業・応援団体の広報】
事業の広報は、千葉県 HP、当会 HP の他に、Instagram： chiba_youth_env、Twitter：@chibayouth_env。
当会の facebook、Instagram でも配信していきますのでご覧ください。

【募集期間】
募集は令和５年７月１９日～令和５年９月１９日（火）17：00 必着。
応募は全てメールでの対応となります。募集要領をご覧の上、募集様式へご記入ください。

【審査及びアイデアコンテスト】
一次審査通過した５団体は１０月１５日（日）午後、幕張メッセ国際会議場で「若者アイデアコンテスト」が行われます。入賞は３位までとなります。

審査は審査員の他に、アイデアコンテスト会場に参加された皆さまの１票も加算されます。
是非若者のアイデアに応援の１票をお願いします。
表彰式は、エコメッセ 2023in ちば会場（幕張メッセ国際会議場コンベンションホール）

【活動へ向けて】
入賞した若者団体と支援する団体とのミーティングを行い、活動開始実行します。令和６年３月には活動報告会を実施し、継続へ向けて歩みます。
※入賞にかかわらず、活動へのサポートとして、環境保全活動へ向けた研鑽や企業、助成金等の情報も提供します。

若者への広報と応援の応募をお待ちしています！！
（文責：桑波田 和子）

2023 年「夏休みユースボランティア体験 」の募集と課題

夏休みユースボランティア体験は、当団体が地球環境基金の助成を受け「SDGs・ESD をひろげるための“ちば拠点作り事業」の一環として実施して３年目になりますが、いろいろ課題も見えてきました。

★課題一つ目は、当団体が事務局としてプログラムにユースと共に参加して、プログラムの報告をさせていただきました。体験活動が土日祝日に集中することで参加が難しくなりました。団体さんに受付と実施の報告をお願いすることでの継続を考えました。
そのため、受け入れ団体にお願いの説明会と団体同志及び事務局との交流会を７月 10 日夜にオンラインで実施いたしました。当日の受付事務及び報告のお願いにも快く応じてくださり、感謝いたします。団体交流の中では、若い人に地域の活動を知ってもらいたいという熱意が伝わり、共通の想いと感じました。

★課題二つ目は、数年で増えてきている「熱中症」です。交流会の中でも話題が出ましたが、団体内で「熱中症対策研修」を緊急で実施した団体もありました。命につながることですので、ボランティア受け入れに関わらず、団体内で情報共有していただきたいと考えています。

★課題三つ目は、添付の「夏休みユースボランティア募集！」のポスターを県内高校・大学の校内に掲示していただき、生徒・学生が QR コードを読み取って申し込みができるシステムについて、掲示の効果がなかなか現れないていないことがあります。
なお、受け入れ団体の試験的体験であれば、８月末までにプログラムをいただければ、追加も可能です。参加すると、ユース活動に興味を持つことにつながるので、お気軽にユースボランティア環パちば事務局　volunteer@kanpachiba.com にお申し出ください。
「ふりかえり交流会」については、高校生にも参加を強力に呼びかけるために、９ 月２日（土）午後に幕張メッセ国際会議場 203 室にて、実施いたします。
今年ご協力いただいている団体とプログラムは以下のようになります。お近くのユースに参加のお声掛けをよろしくお願いいたします。

（文責：横山 清美）

団体	プログラム
NPO 法人亀成川を愛する会	亀成川とその流域の生物多様性を守る活動　～・ヘイケボタル調査・田んぼの草刈り・原っぱの草刈り・亀成川あみだくじ作戦・外来種駆除・トンボ観察会
シェア里山「ヤマナハウス」	南房総の里山で古民家の改修や畑つくり、裏山を開拓しよう！
浦安三番瀬を大切にする会	三番瀬の海の「プラスチックごみ一掃」に挑戦
浦安水辺の会	マハゼのすみか 釣り調査@境川（浦安市）
プロデザインスタジオ＆愛の教会	GOGO ボランティア　～ ゴミ拾い＆プラスチックごみアート創作活動 ～

第１回拠点づくり会議開催

日　時：６月 29 日（木）20：00～22：00
場　所：Zoom
参加者：20 名
ファシリテーター：石井雅章氏　神田外語大学
　　グローバル・リベラルアーツ学部　教授
主　催：NPO 法人環境パートナーシップちば

内　容：参加者は、南拠点・北拠点づくりに参加した方です。開催趣旨として、「SDGｓ・ESD への取り組みを多様な主体と協働して、今後広げるために 2021 年度は『県南』と 2022 年度は『県北』での話し合いを展開してきたこと。2023 年度は、それらをつなぐ『コア』拠点づくりを目指すことをお伝えしました。

まず、南拠点と北拠点の参加者の簡単な自己紹介を行いました。

次に、コア拠点のあり方・コア拠点でのアクションについては、

1）エリア拠点の活動を下支えするための活動
2）エリアではできない千葉県全体の広域的な活動等

の２つの視点で話し合いました。

主な意見としては、

①拠点づくり参加者メンバーの背景（活動内容）など深掘りすることが、お互いを知り、南・北ひいては、県全体へと広く連携が進む。
②拠点会議メンバーの交流の場として、拠点づくり会議でも団体活動を伝える場を設ける。（10 分でも）⇒会議メンバー以外もお誘いしていく。
③可能なら対面、現地に伺う等もできたら良い。
④拠点は環パちばが主体で動くのではなく、拠点会議のメンバーが主体。

等がありました。

事務局からは、チームとして既に動いている＜・ユース活動　・学校との連携事業　・ESD の視点　を入れた ESD プログラムハンドブック作成　・ESD プログラム体験会　・ESD 地域リーダー研修会　・広報＞等について、チームだけでなく拠点会議の場としても関わっていただきたいと伝えました。　　（文責：桑波田 和子）

開催報告

第８回「いちはら環境フェスタ」

日　時：2023 年６月 10 日（土）10：00～15：00（会場開催）
場　所：アリオ市原　屋内展示：1F サンシャインコート
　　屋外出展：1F サンシャインコート 及びサンシャインアベニュー
主　催：いちはら環境フェスタ実行委員会・市原市

内　容：荒天、新型コロナ感染など、会場開催はなんと５年ぶりでした。また、市制施行 60 周年記念事業の一環として位置づけでした。会場には多くの方が来場されました。

実行委員会は、６月開催に向け１月末にスタートし、4 回の会議を経て準備してきました。さらに今年度は、大型店舗の場を使用させていただくなど、事務局（市原市環境管理課・クリーン推進課）の負担は大きかったと思いました。

屋内展示は、６月５日～10 日まで、パネル展示で団体活動など紹介し、10 日は屋外で対面での開催でした。

イベント内容は、NPO・企業・学校、行政などによる活動の展示や・実演の他に、令和５年度「環境保全推進　絵手紙展」表彰式、サイエンスパフォーマンスショー（電気と環境）、自然界ラッパーOMG ライブ、紙パック交換、フードドライブコーナーなど盛りだくさんでした。

当会は、マイクロプラスチックを探してみよう！のテーマで、実際に砂の中からマイクロプラスチック探しです。多くの親子連れの参加者があり、関心を持って頂く機会となりました。

久しぶりの会場開催でしたので、市原市在住の当会の会員さんもブースにきてくださり、他の団体との交流など、対面ならではのフェスタとなりました。　　（文責：桑波田 和子）

公民館で、ダンボール工作をしました。

場所：黒砂公民館　日時：2023 年６月 17 日（土）

毎年夏に、千葉市の公民館講座の依頼がきますが、今年の最初は黒砂公民館でした。ここは黒砂公民館と緑町中学校区青少年育成委員会が主催で、地域の小学生に毎月だしている「夢の箱だより」で企画募集、というものでした。年に何度も様々な子供向けプログラムを実施していて、子供対象のノウハウに長け、元気いっぱいの方たちでした。公民館と地域とコラボレーションが上手にとれている模範として、私も地元で育成委員をやっていますが、参考になりました。

参加者は１年生を中心に４年生までの 13 名でした。最初の3R の話では、できるだけゴミをださないこと、燃やすごみを減らすことが大事。紙のリサイクルの説明では、木や草が紙の原料になる不思議の部分を、理科専門家の小倉さんが、実際の植物で繊維を見せてくれました。今どきの子供たちは様々なメディアを通じて知識が豊富だと思いますが、目の前にいる生身の人の、未整理ながらも「思い」を伝えたい、少しで受け取って欲しいという気持ちで行いました。

今回のビー玉レーン作りは環パとして初めてのプログラムです。今まではダンボールといえば恐竜や動物の工作でしたが、担当が替わり、準備やノウハウの都合などで再考しました。事前準備の段階で１年生の参加者が多いことが分かったので、型紙やダンボールの切り方などの試行錯誤をしながら当日を迎えました。実際には多くの大人のお手伝いもあったので、子どもたちの作業は予想より早く進みました。２つ目を作りたい子、応用編のおもちゃを作り出す子も出現。途中で主催側がボール遊びの時間を設けるなど、盛りだくさんの内容になりました。桑波田さんは企画側の方たちと情報交換をはかり、充実した半日となりました。

（文責　中村　明子）

子ども会リーダー講習会「3R とリサイクル工作＜紙漉き＞」

場所　幕張公民館　日時 2023 年７月 25 日（火）

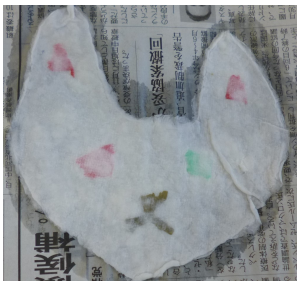
子ども会リーダー講習会ということで小学校３年生から６年生までの子ども８名が参加してくれました。「夏休み、早起きしてますか？」の質問に「してな～い」との返事。まだまだエンジンのかかっていない子どもたちに、3R と紙のリサイクルの話をすることころからスタートしました。「やったことのある3R の行動」を教えてもらおうと思いましたが、洋服のおさがりをもらったりあげたりという経験もあまりないようで、なかなかピンとくる行動が思い浮かびませんでした。ようやく「白色トレーをお店にもっていく手伝いをしたことがある」と声があがり「なるほど、それはリサイクルだ！」と、少しずつ場の雰囲気もなごんでいきました。

紙漉きの入口のところで、実際にリサイクルの「材料に戻す」ことを実感してもらうため、ミルサーを使って紙パックが簡単にパルプ液になる様子を見てもらいました。最初、パルプ液を見て「気持ち悪い」を連発していた子どももいました。材料が水と紙パックだけだとわかっていても、どろっとしてダマの混じったパルプ液が得体のしれないものに見えたのでしょう。「触れない、臭い」と渋っていましたが、だんだん紙漉き作業が進んでいくうちに、気持ち悪さも払拭されていったようでした。

１枚目は無地の紙漉きでしたが、２枚目からは押し花、押し葉、色紙で、各々自由に柄を漉き込んだ作品作りをしてもらいました。凝った柄を漉き込む子、面白い絵柄を漉き込む子、それぞれに、グループごとに楽しそうでした。

最後に SDGs の話もして、千葉県地球温暖化防止活動推進センターが作った「わがまち わが家で取り組もう SDGs」の冊子も渡すことができました。

今回も桑波田、小倉、中村の３人で担当し、それぞれの持ち味を生かした講座内容になりました。



（文責　中村　明子）

第５回うらやす三番瀬感謝祭

～2023 年６月４日市民６８１名が参加～

浦安三番瀬クリーンアップ大作戦実行委員会　横山清美

1999 年の浦安の三番瀬の海岸と干潟は、立ち入り禁止だったこともあり、ゴミだらけでした。市民がなんとかしようと思った時に集まってくれたのが、市民団体や浦安市職員組合の方々。実行委員会を組織して活動を始めました。東日本大震災を経ても継続しながら、三番瀬沿いの工事用道路が緑道に生まれ変わり、市民に開放されて市民の憩いの散歩道として活用されるようになりました。実行委員会としては、開始して 20 年目 2019 年、第２ステージとして三番瀬沿いの住宅街の海辺のまちづくりと、相変わらず立ち入り禁止の護岸のゴミ拾いと海辺の体験を目標に、「うらやす三番瀬感謝祭」として、浦安市民が誇れる海辺になるまで継続することとしました。

2023 年の感謝祭では、事前の５月６日に「マイクロプラスチックストーリー～ぼくらが作る 2050 年～」映画上映会ができました。浦安市が主催事業として三番瀬環境観察館と海辺活用の「Let's　enjoy！三番瀬」を同時開催しました。実行委員会の目標である三番瀬沿のまちづくりのスタートとして協力させていただき、長年協働体制でクリーンアップを支えてくれた浦安市へ恩返しになったかと思いました。

まるごみ印旛沼 2023 開催報告

まるごといんばぬまプロジェクト事務局

まるごといんばぬまプロジェクトは、「汚い」「危ない」とネガティブに発信されがちな印旛沼を明るくポジティブに発信し、印旛沼とその周辺地域をまるごと盛り上げていくため、様々な活動をしています。

今回は、海洋プラスチックごみの多くが内陸から流れ出たものということに着目し、印旛沼の周囲をきれいにすれば海も守られるということを念頭にごみ拾いイベントを企画しました。

そしてこのイベントは、ＤＪ ＫＯＵＳＡＫＵさんが主宰する「まるごみＪＡＰＡＮ」と連携して「まるごみ印旛沼」として開催したものです。

イベントには、いつもお力添えいただいている、岩渕薬品さん、伊藤園さん、印旛沼探検隊さん、小出農園さん、水辺散歩さんなど、多くの方にお集まりいただき、印旛沼に流れ込む高崎川の水面や沿岸をきれいにすることができました。また、伊藤園さんのお誘いで参加してくれた市立船橋高校サッカー部１年生の皆さんには、若い力で大いに助けていただきました。

ごみ拾いの後は、小出農園で田植えやナガエ取りなどのお手伝いをし、交流会です。ＤＪ ＫＯＵＳＡＫＵさんとＴＳＵＢＡＳＡさん、歌手のゆうなみさんも加わり、小出農園さんが用意してくれた沼の恵みをいただきながら、参加した皆さんからそれぞれの立場からのまるごみ&まるごとへの想いを語っていただきました。様々な分野で活躍する皆さんが一同に会し、印旛沼を共通のテーマにして盛り上がる様子は、まさにまるごとが目指している姿でした。

また当日は、現地だけでなく、各自で印旛沼のお気に入りの場所やそれぞれの活動場所でゴミ拾いをしていただくよう呼びかけたところ、佐倉市カヌー協会やＩＳＪカヌー同好会の皆様にも参加していただき、印旛沼の水面をきれいにしていただきました。今後もやり続けることで、大きなうねりになることを期待しています。

次回は、11 月の開催を予定しています。より多くの方に参加していただけるよう準備を進めていきます。

調べよう！　減らそう！　マイクロプラスチック

美しい手賀沼を愛する市民の連合会　小倉久子

手賀沼流域フォーラム実行委員会（手水協事務局、流域７市、流域の市民活動団体で構成される）では、地域企画として流域各地の市民団体が中心になって、2023 年度は 25 の企画を開催（予定）しています。その一つとして、７月 22 日（土）の１３時３０分～１６時に我孫子市生涯学習センター「アビスタ」にて、我孫子市消費者の会が企画団体となって、標記のマイクロプラスチック体験講座を行いました。

小学生以上 20 名の募集に対して 30 組 69 名の応募があり、抽選で 10 組の親子 22 名にご参加いただきました。

まず最初に、プラスチックとは、マイクロプラスチックとは、どんなものか、という説明をした後、全員で手賀沼公園内でマイクロプラスチック探しをしました。普段は見過ごしているような場所も、気を付けて観察すると結構あちこちに落ちており、それらをスプーンでガラス瓶の中に採取しました。

次に、室内に戻って、瓶の中に水を入れると、マイクロプラスチックの多くは、水面に浮かび上がってきました。でも、沈んだままのものもありました。それで、浮かんだもの、沈んだままのものを掬い取って、ルーペで観察しました。

実際にマイクロプラスチックを採取して、どんなものかを実感として捉えた後に再びミニ・レクチャー。マイクロプラスチックはどのようにしてできるのか、なぜマイクロプラスチックが問題になるのか、ナノプラスチックについて、などをお話ししました。

最後に子供も大人も全員が、リンゴの形の付箋紙に「減プラ宣言」を書いて、リンゴの木の絵に貼り付けました。写真のように、たくさんの「脱プラ宣言」が生まれました。

「親子で楽しむ！みつびしでんき野外教室 @行徳鳥獣保護区 2023」への参加

しろくまキッズ　廣田由紀江

去る６月３日土曜日、行徳鳥獣保護区にてこどもエコクラブのイベント「親子で楽しむ！みつびしでんき野外教室」が行われ、しろくまキッズ６人で参加しました。こどもエコクラブの良いところは、このように活動を後押ししてくれるような企画にお誘いいただけるところです。今回は、『環境が大好きな三菱電機の社員さんと一緒に「鳥がつくった森」で生き物を探そう。川あり、海ありの不思議な森で、カニ、虫、魚、どんな生き物に出会えるかな？』ということで、初めて行徳鳥獣保護区の中に入りました。ふだんは鍵がかかっていて入れません。てっきり「秘密の花園」かと思っていましたが、森の中を抜けると田んぼが広がっていたり水を浄化させている水車が設置してあったりと、人の手が入り管理されていることがよくわかりました。イベントは大盛況で、４グループに分かれ、三菱電機さんの他に行徳鳥獣保護区のスタッフさんや、こどもエコクラブ全国事務局さんが各グループにそれぞれ入り、1 グループ 15 人近くの人数になっていました。三菱電機の方々からは、生き物クイズや虫食いの葉っぱの観察などがあり、細い通路で長く連なって歩く時には森の中なのにカニが現れ、子どもたちは大はしゃぎでした。前日からどしゃぶりの雨が降り、もしかしたら中止かもしれないと思ったのですが、開催の時間には雨は止んで晴れ渡り、ぬかるみはあるものの思ったほどではなかったのが驚きでした。その後、夜から手首が猛烈にかゆくなり、不安に思うほどに腫れ、犯人は「ヌカカ」と知りました。なんでも体験してみないとわからないものだと改めて思いました。関わってくださった皆さん、どうもありがとうございました。

県内の環境保全活動人（団体）紹介　―　68　―
おききしました！　この人・この団体

「手賀沼デジタル教材」

美しい手賀沼を愛する市民の連合会（美手連）野口隆也

２年前に柏市教育委員会の人とお会いした時に「小学校の先生は忙しくて大変。特にデジタル教材の新鮮な地域情報を望んでいる」という話を聞き、瞬間的に脳裏に浮かんだのは美手連各団体が有する手賀沼関連の専門知識をデジタル化したらきっとお役に立てる。同時にデジタル化に挑戦することで結果的に高齢化に苦しむ各団体が若い世代にバトンタッチすることも可能になると考えました。

昨年１月の理事会で手賀沼デジタル教材事業が正式に認められ、２月にちば環境再生基金の助成も決定しました。運営事務局メンバーによる度重なる討議・準備の結果、昨年の６月に何とか第１回プロジェクトチームが発足できました。

麗澤大学生２名＋麗澤・地域連携実習にはデジタル技術・制作で多大の協力を得、我孫子野鳥を守る会副会長にはパワーポイントの技術講習会を数回開いて頂きました。柏市教育委員会図書館グループ・我孫子市教育相談センター・柏市市民サポートコーナーの皆様には行政・教育の立場から貴重な助言を多数頂きました。教材作りに主体的に参画した美手連各団体各位の努力も最高でした。今年２月には柏市と我孫子市の両教育長さんにも見て頂き、最終６月に出来上がった手賀沼デジタル教材作品 2022 年度版が次の７作品です。

①＜手賀沼をうつくしく～せっけん物語～＞
　我孫子市消費者の会
　澄んだ手賀沼をとりもどそうとしたせっけん物語。孫がおばあちゃんに聞く。

②＜手賀沼むかしものがたり＞
　流山市立博物館友の会
　手賀沼の誕生から今日まで。歴史の変遷を漫画で楽しく紹介。

③＜船戸の森のおはなし＞　船戸の森の会
　森を整備するとどんなに素敵な場所になるか。森のキャラクターが案内。

④＜手賀沼周辺のデジタル野鳥図鑑＞
　我孫子野鳥を守る会
　野鳥の宝庫手賀沼。会員が撮った一瞬の写真。便利な検索機能付き。

⑤＜紙芝居　スズメさんの見聞記シリーズ＞
　我孫子野鳥を守る会
　紙芝居を見て、演じて、野鳥の環境を体験。野鳥が主人公の紙芝居５作品。

⑥＜東葛地域のトンボ写真集＞
　我孫子野鳥を守る会
　東葛地域で見られるトンボ。会員が撮った鮮明な写真。便利な検索機能付き。

⑦＜手賀沼流域のこまった水草＞
　美手連デジタル教材制作 PT 運営事務局
　手賀沼流域でこの 10 年爆発的にふえた主に南米原産の水草。洪水の危険やお米への被害が。忍者を使って分かり易く紹介。

現在、我孫子市教育委員会と柏市立図書館・柏市教育委員会では具体的に授業で使う準備を進めて頂いておりますし、上記の作品を事前に見て頂いた先生方からは「ぜひ授業で使いたい」と高い評価を頂いております。

更に 2023 年度版の「手賀沼デジタル教材」作りが今年６月からスタートを切りました。来年３月には出来上がる予定です。

運営会議報告

６月度運営会議

６月８日（木）20:00～22:00
会場：オンライン（Zoom）

【報告】
- 第６回通常総会開催　5/21
- 若者が主役の環境活動応援事業
- 地球環境基金事業交付申請書
- ニュースレター９号・だより１５１号印刷送付
- いちはら環境フェスタ実行委員会　5/15
- エコメッセちば運営委員会　6/1　他

【協議】
- だより 152号
- いちはら環境フェスタ　6/10
- 印旛沼環境基金応募
- 地球環境基金事業（2023 年度事業）
- 千葉市公民館講座　6/17
- エコメッセ出展会場申し込み
  セブンイレブン基金（里山体験）
- 千葉県環境審議員　中村さん選出
  千葉市環境審議員　桑波田さん　・その他

７月度運営会議

７月１３日（木）20:00～２２:00
会場：オンライン（Zoom）

【報告】
- いちはら環境フェスタ　6/10
- 千葉市公民館講座　6/17
- 印旛沼環境基金応募
  「若者と考える印旛沼の未来」10/1
- コア拠点会議 6/29
- 若者が主役の環境活動応援事業

【協議】
- だより 152号
- エコメッセ 2023in ちばオンライン出展
- ナガエツルノゲイトウ駆除　8/3～5 桑納川
- 地球環境基金事業について
- 千葉市公民館講座について
- 若者が主役の環境活動応援事業について
- その他

お知らせ

日本水大賞の募集がはじまっております。

「地球、水、未来を考える」

水は自然環境の中で循環し、あらゆる地球上の生き物を育み、命を支える一方で、その過程では災害、被害をもたらしてもいます。
日本水大賞は本年度２６回を数えます。
水循環系の健全化や水災害に対する安全性の向上に寄与すると考えられる活動で、水防災分野・水資源分野・水環境分野・水文化分野と、この４つの分野に該当する活動を地域の復興の視点から実施する複興分野における諸活動（研究、技術開発を含む）を対象とします。
皆様ぜひ応募してみませんか。
詳しくは、日本水大賞のホームページをご覧ください。
http://www.japanriver.or.jp/taisyo/

募集期間：２０２３年 7月 7日 ～１０月３１日（郵送の場合は当日消印有効）
お申込み・お問い合わせ：日本水大賞委員会事務局（公益財団法人日本河川協会）

「特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば」

環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすことを目的とする。

お問い合わせ
事務局：〒262-0006　千葉市花見川区横戸台 21-13　特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば
Tel　：　090-8116-4633　　E-mail：info@kanpachiba.com
ホームページ：https://kanpachiba.com/
※会費や会員申し込みなどの情報は上記 ＨＰでご確認ください。